

ば・あ・や・の・う・け・う・り

「知床旅情」

歌手・加藤登紀子さんの記事～(要約)

「知床観光船の事故で思い出したのは、1959年80人を超える死者・行方不明者が出た、知床半島での漁船の遭難事故。昔から、『風が吹いたらクナシリに逃げろ』と言われていたのに、当時のソ連に拿捕(だほ)されるのを恐れて、強烈な風で海が荒れる中、羅臼港に帰ろうとして事故に…。この悲劇を受け、森繁さんが、真冬の知床半島の番屋で暮らす老人の映画、『地の涯(はて)に生きるもの』を自主制作。森繁さんが、そのロケの置き土産として、『知床旅情』を作詞作曲しました。

私のステージを見てくれていた森繁さんが、『僕と同じ心で歌う人を見つけたよ』と、言って下さり、私が『知床旅情』を歌うことになります。出会い…別れ…人の人生に寄り添いその全ての時間がいいおいしいものだね…と、語りかけるような歌です。

これからは、亡くなった方々への追悼の気持ちと、厳しい知床の自然をずっと愛し続けてきた人々への敬意をこめ、歌い続けようと思います。」と。(森繁さんの歌声も好きでした)

6月中に梅雨明けなんて…初めて連日気温40度のニュース、この山間地も30度超えてビックリ。突然真夏になったよう…でも…でも…セミの声がまだ聞こえないですよ。そして…今年は、源氏木戸を一匹も見なかった。毎年家の前を飛んでいたのに…。そういえば、モンシロチョウも…ちょっとだけ。南天の白い花も虫を待っている。少しずつの変化は仕方ないけど、ドカーンと、地球の暴発なんかやめてくださいね。

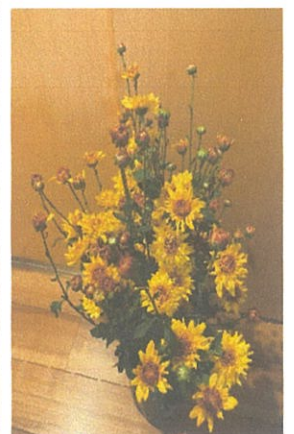
カッコウの声高らかにひびく朝
マグロ手早く解体さるる

川曲・樫(ゆずりは)園芸さん
南相馬市に、60万本のサツマ芋の苗を、一か月間通って植えつける予定と。毎日通っているの？
「はい、一時間半で行けるので、1日2万本位ずつ運んで植えて…」と。大変な作業のはずなのに、若手社員さんたちは、残業も苦にならないようで楽しそうに…。

柏原社長さん…黒糖焼酎をいつもは1本なのに、今日は2本…

どうしたんですか？

「これから南相馬に行きます。作業が遅れていて、泊まり込みでやってきます。なので、その分です…(笑)」ありがとうございます。異常気温でも、サツマ芋の生育に被害がなく、作業が安全でありますように。そして、地域の皆さまも、草刈りなど…絶対…絶対…無理をしないで下さい。



レイ子さん・孝子さんから黄色の花が…♡♡